

はるか 弥生時代を 体感

とっとり
弥生の王国

出土品を展示し、ものづくり体験も可能。宗理文化財センター青谷調査室では収蔵展示室に保管されている出土品を間近に見学できる。



新を負った頭蓋骨



ヒスイ製や
ガラス製の勾玉



花弁模様が彫刻された高杯

で盛り上げ
を伝える

寺地遺跡を学ぶ会

まほひかる

日光さん

が、史跡の景観保
王国調査整備活

時代の生活用品

な工芸品が出土
ことが可能。子ど
生人が自分たち
自らのルーツにつ
ですね。

で、青谷上寺地遺
集、活用されるの

弥生時代を今に伝える

周囲を山に囲まれた平地の中にある青谷上寺地遺跡。弥生時代には浅い海がすぐそばに広がっており、中国大陸や朝鮮半島、九州北部や北陸地方の人々との交易を通じてたくさんの貴重な品が運ばれていました。

この遺跡は、水分をたっぷりも含んだ土に覆われており、腐って無くなりやすい木材や動物の骨、角などを素材とする道具類が多

数出土。美術工芸品の高杯や精緻な編み物など、弥生時代に高度な技術とを伝えてくれました。凶を占うために使われたイノシシの骨「卜」も見られています。

さらに注目されるものにさしかかるころに散乱していた人骨。いた骨が多くあり、「魏志倭人伝」に記した「魏志倭人伝」に記した「乱」をほうふつとさせるから弥生の歴史。青谷上寺地遺跡は「博物館」とも呼ばれて

藤井啓可さん撮影「西方運か」第5回弥生の国邑写真展

弥生時代に栄えた集落跡である、青谷上寺地遺跡は、全国的にも貴重な2つの遺跡の宝、観光資源と明らかにするとともに、地域の宝、観光資源と

文化、生活の様子を伝えることができます。これら国や地域の歴史を学ぶことのできない青谷上寺地遺跡は、市内では、34の遺跡保存されています。

その中でも、鳥取県に属する極めて保存状態の良さが発掘された「青谷上寺地遺跡」は、約2300年前の弥生時代の歴史を今に伝えています。

県は、この2つの「とっとり弥生の王国」として情報発信。貴重な遺跡でなく、地域の魅力も資源としても活用を